

霞ヶ浦高等学校附属中学校

二〇二〇年度 第二回 一般入学試験問題

(令和二年一月十八日実施)

国語

試験時間 四十五分

注意

- 一 この問題用紙は、「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二 「はじめ」の合図があったら、最初に受験番号と氏名を書きなさい。
- 三 問題を読むときは、声を出してはいけません。
- 四 答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 五 記号による解答は、特別な指示があるもののほかは、あてはまるものを一つ選び、その記号を答えなさい。記号以外の解答は、指示のとおりに答えなさい。
- 六 字数制限のある問題では、句読点やかぎかっこなどの符号もすべて字数にふくめます。
- 七 試験中に携帯電話などの使用はできません。

| 受験番号 | 氏名 |
|------|----|
|      |    |

1 次の——線部の漢字のよみがなを書きなさい。

- ① 作品を批評する。
- ② 寸法が合わない。
- ③ 費用を負担する。
- ④ 知事が登庁する。
- ⑤ 十分の一に縮尺する。
- ⑥ 家屋を売る。
- ⑦ 干潮の時刻。
- ⑧ 秒針が止まる。
- ⑨ 蚕を育てる。
- ⑩ わずかな誤差が生じる。
- ⑪ 臨海学校。
- ⑫ 門戸を開く。
- ⑬ 簡易な手続き。
- ⑭ 収入の内訳。
- ⑮ 創造的な仕事をする。
- ⑯ 飛行機を操縦する。
- ⑰ 新しい一派。
- ⑱ 精神的な支柱。
- ⑲ 除雪作業にあたる。
- ⑳ リーダーを補助する。

2 次の——線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。

- ① エンガンの道を歩く。
- ② オンセンに入る。
- ③ ピアノのエンソウ。
- ④ サトウと塩。
- ⑤ タンジュンな構成。
- ⑥ 劇がハイマクする。
- ⑦ セスジをのぼす。
- ⑧ 食料をホゾンする。
- ⑨ カンゴ師。
- ⑩ ヘイキン点を出す。
- ⑪ カブシキ会社。
- ⑫ キボを広げる。
- ⑬ ゴミがサンランする。
- ⑭ ザッシを読む。
- ⑮ 絵画をシヨゾウする。
- ⑯ スガタを現す。
- ⑰ キテキを鳴らす。
- ⑱ マドベに立つ。
- ⑲ 光のハンシヤ。
- ⑳ コンナンに立ち向かう。

3 問一 次の①・②の矢印の部分は何画目に書きますか。漢数字で答えなさい。

① 善 ② 権

問二 次の①〜③の漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

① 郡 ② 経 ③ 新

問三 次の①～③の四字熟語を完成させるために(A)から(C)に当てはまる漢字を答えなさい。

- ① 無我(A)中(何かに熱中して我を忘れること)
- ② 電光(B)火(すばやいこと)
- ③ 一(C)両断(物事を思い切って処理すること)

問四 次の①～③の——線部の修飾語が修飾している言葉を文中から書き抜きなさい。

- ① 庭に赤いチューリップがたくさんさいた。
- ② 字を|ていねいに書くことを意識する。
- ③ 晴れていたのに、急|に強い雨が降った。

問五 次の①～③の(D)から(F)に当てはまるものをあとから選び記号で答えなさい。

- ① (D)を引|張る。(人の成功をじやまする)
- ② (E)を長|くする。(待ちこがれる)
- ③ (F)を巻|く。(とてもおどろく・感心する)

|   |                     |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | 頭                   | イ | 目 | ウ | 舌 | エ | 歯 | オ | 首 |
| カ | 腕 <small>うで</small> | キ | 手 | ク | 指 | ケ | 腹 | コ | 足 |

問六 次の①～③の——線部を敬語に直したとき、正しいものをあとから選び記号で答えなさい。

① 冷めないうちに食べてください。

ア いただいて

イ ちようだいして

ウ めしあがって

② 先生の絵を見た。

ア 拝見した

イ ご覧になった

ウ お目にかかった

③ お客様が一時に来る予定です。

ア 参る

イ うかがう

ウ いらっしやる

大学での授業中、学生のひとりひとりに問題を出すことがあります。正しく答えた人に対し、私は「はい、結構です」と言うことがあります。□、『結構です』は冷たい感じがします」と、複数の学生から意見をもらいました。私はとても意外でした。

「結構」ということばを、私は「大変よい」「すばらしい」の意味で使います。「これは結構なお庭ですね」のように。学生もその意味は知っているでしょう。ところが、彼ら自身は、日常生活の中で、褒める意味で「結構です」を使うことは、まずありません。

若い人にとって身近な「結構です」の使い方といえば、話し合いが決裂して「もう結構です」と席を立つとか、しつこいセールスに対して「結構です」と断るとか、そういった強い拒絶を表すときぐらいでしょう。あまりに拒否感が強すぎるので、彼らが断るときには、むしろ「大丈夫です」を使うのが一般的になりました。

実は、学生に『結構です』は冷たい感じがする」と指摘されたとき、私は思わず「そんなはずはない」と考え、その意見を無視しそうになりました。何しろ、私自身の言語感覚では、「結構です」は礼儀正しく褒める言い方だったからです。でも、それと同時に、「学生の指摘は、世代間ギャップがあることを示すサインではないか」ということに、かろうじて考え至りました。それで、自分の日本語を客観的に見直すことができました。

自分の言語感覚だけが正しいと思っていると、異なる世代から指摘を受けても、それが「世代間ギャップのサイン」であるとは気づかないものです。世代が違えば、ことばの受け取り方も変わるということを、いつも注意しておくことが必要です。

(出典：飯間浩明『つまりきやすい日本語』)

※セールスⅡ販売すること。

※ギャップⅡずれ。食い違い。

問一  に当てはまる言葉を、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア あるいは      イ だから      ウ つまり      エ ところが

問二 「彼ら自身は、日常生活の中で、褒める意味で「結構です」を使うことは、まずありません」とありますが、本文中の「彼ら」は、どのような意味を表すときに「結構です」を使うのですか。本文中から四字で抜き出しなさい。

問三 「世代間ギャップ」として、本文中ではどのようなことを話題にしていますか。本文中から二十五字で抜き出しなさい。

問四 「かろうじて」の意味を、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア どうか      イ なんとなく      ウ すぐに      エ はっきりと

問五 本文中で筆者が最も言いたいことを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 若い人の意見を聞くと、正しい言語感覚を維持できるということ。  
イ 言語感覚は世代で異なることを、認識しておくべきだということ。  
ウ 他者の指摘により、自分の間違いは客観的に見直せるということ。  
エ 異なる世代から指摘されたら、相手を注意するべきだということ。